顔刺激の評価方法が顔選好に及ぼす効果

○森 久美子

(大学関西学院大学社会学部)

キーワード: 顔、単独/並列評価、選好逆転

Female face preference and joint vs. separate evaluation

Kumiko Mori

(Kwansei Gakuin University)

Key Words: Face, Separate/joint evaluation, preference reversals

目 的

選択肢への選好が、選択肢が提示された状況や文脈によって変化する現象を選好逆転という。本研究では、複数の対象について、個々の対象を別々に提示して評価を求める単独評価 (Separate evaluation) と、すべての対象を同時に提示して評価を求める並列評価 (Joint evaluation) における選好逆転の問題を、顔刺激への好みをを用いて検討する。

単独評価と並列評価で選好が逆転する理由は以下のように説明されている。個々の選択肢が複数の属性を持ち、単独でも評価しやすい属性 (Easy 属性) と、複数の選択肢を比較しなければ評価が困難な属性 (Hard 属性) が混在している場合、単独評価では Easy 属性が判断に与える重みが大きくなるのに対して、並列評価では選択肢の相互比較が可能になることによって Hard 属性の重みが大きくなる。このことが評価方法による選好の逆転を生むという。

女性の顔の魅力については、幼児性と異性をひきつける成熟性という、相反する属性が効果を持つことが指摘されている (Cunningham, 1986 など)。異性としての魅力が個体間関係で機能するものであることを考えると、後者の成熟性は、より単独で評価可能な Easy 属性であることが考えられる。

以上のことから本研究では、単独評価場面においては並列評価場面よりも、成熟性の高い顔がより選好されるという予測を立て、これを検討する。

方 法

刺激作成 メガネ等をつけていない女性の首から上の正面向き顔写真 30 枚を用意し、大学生の男性 15 名、女性 11 名に印象評定を求めた。「かわいい」「美しい」に関して極端な評価のついた写真を除き、残った写真の中から、幼児性 (「かわいい」「若々しい」)、成熟性 (「大人っぽい」「女性らしい」「セクシーな」) の二点について、幼児性だけが低い「幼児タイプ」、成熟性だけが低い「成熟タイプ」、両方が高い「幼児×成熟タイプ」の 3 枚を刺激として選定した。

手続き 大学生男女 244 名が調査に参加し、143 名が単独評価群、101 名が並列評価群に割り当てられた。

課題と評価方法 参加者の課題は、3 枚の刺激写真にダミー写真 7 枚を加えた 10 枚の写真について、「幼児性」「成熟性」のほか「親近性 (親しみやすい、健康的な、家庭的な)」を測る計 9 項目の印象評定 (-3 ~ +3 の 7 段階) を行うことであった。このとき、単独評価群は写真を一枚ずつ提示され、すべての写真について評価を行った。並列評価群は 10 枚の写真を同時に提示され、もっとも魅力的と感じる写真一枚を選択すると同時にその印象を評定した。写真の提示順序と配列は参加者ごとに無作為化した。

結 果

単独評価群では印象評定の合計値が最大となった写真、並列評価群では評定対象として選択された写真を、各群においてももっとも好まれた写真とした。ターゲット刺激である 3 枚のいずれかをもっとも好んだ 93 名 (男性 48 名、女性 45 名) を分析の対象とした。選好された写真は評価方法によって異なり、単独評価では成熟タイプが、並列評価では幼児タイプが好まれるという選好の逆転が生じていた (男女とも $p < .05$)。また成熟タイプは女性に、幼児および幼児×成熟タイプは男性に、より好まれていた (両評価方法とも $p < .05$)。

Table 1 各タイプへの選好

		幼児	成熟	幼児×成熟
単独評価	男性	9	10	9
	女性	2	22	7
並列評価	男性	14	1	5
	女性	6	6	2

幼児タイプ・成熟タイプの写真に対する評定結果を Fig. 1 に示す。幼児タイプの幼児性は並列評価群で高く評定されていたが、成熟タイプの成熟性評価には評価方法による影響は見られなかった。

Fig. 1 幼児タイプ・成熟タイプに対する印象評定結果

考 察

並列評価と単独評価で選択される写真のタイプが異なったことは、幼児性と成熟性という二種類の魅力が効果を持つ場面の違いを示唆する。幼児性という魅力は集団として刺激提示された場合に (たとえば同世代の集団の中での配偶相手の選抜場面など) 効果を持ち、成熟性の魅力は刺激提示される状況にかかわらず効果を持つ可能性が考えられよう。